

平成 30 年度第 2 回岡崎市総合教育会議 会議録

日 時 平成 31 年 1 月 24 日 (木) 午後 4 時

場 所 岡崎市役所東庁舎 2 階大会議室

出席者

市 長	内田 康宏
教育委員会	小出委員
	岡田委員
	福應委員
	上原委員
	安藤教育長

議 題

- 1 外国人児童生徒の日本語教育及び学習支援について
 - (1) 外国人児童生徒について
 - (2) 中学生を対象とした日本語初期教室について

- 2 教育行政に係る平成 31 年度当初予算案について

- 3 その他

○総合政策部長

お待たせいたしました。それでは、ただいまから平成30年度第2回総合教育会議を開催します。

本日の議事進行につきましては、岡崎市総合教育会議設置要綱第4条の規定によりまして、市長にお願いをいたします。それでは市長、よろしく申し上げます。

○市長

それではただいまより平成30年度第2回の総合教育会議を開催いたします。

前回7月の総合教育会議では、小中学校の普通教室へのエアコン設置や熱中症事故防止対策について様々なご意見をいただきました。ご案内のとおり、エアコンの設置につきましては今年の6月末までに全ての小中学校の教室にエアコンを設置できることとなりました。これで夏におきましても快適な教育環境を提供できることで、2学期の始業式を3日早め、その代わりとして10月2日から4日の3日間を秋休みとするキッズデイズを、3学期制を採用している県内の自治体としては初めて導入することができました。その結果、夏休みに実施しておりました小学校球技大会を10月に実施することができ、熱中症のリスクも大幅に軽減できるものと期待しております。さて、本日の会議では、外国人児童生徒の日本語教育および学習支援について、並びに、教育行政に関わる平成31年度当初予算案の2つの議題につきまして委員の皆様のお考えをお聞かせ願えればと思っております。それでは早速ですが、お手元の次第にしたがって会議を進めさせていただきます。まず、議題1の外国人児童生徒の日本語教育及び学習支援について順次ご説明をお願いします。

○社会文化部長

社会文化部の方から説明いたします。資料1をご覧くださいと思います。

まず1つ目でございますが、平成28年から30年の3カ年の4月1日現在の外国人人数とカッコ内に児童生徒数を記載しております。

特に数の多い、ブラジル、フィリピン、中国、韓国、ベトナムの人口の推移をご覧くださいと思います。平成20年のリーマンショックで当時12,000人いた外国人市民は半減いたしました。平成27年頃から増加し始め、現在は平成20年の数に迫る勢いがございます。現在では、以前の出稼ぎではなくて10年以上定住している外国人市民が約7割に達しております。このため親と一緒に来る児童生徒だけではなくて日本に出生した児童生徒の数も増えているものと予測されます。

2として国際課と教育委員会の連携でございますが、昨年この会議において土日など学校生活以外の時間に民間やNPOとの協働で親子を対象にした日本語教室や母語教室の開催というものと、小学校入学後スムーズに学校生活を送れるようにするための入学前のプレスクールの開催、そして親に対する日本語教育の重点的な実施につきまして提案をさせていただきました。

3番目でございますが、今年度からの取組みとして、まず土日など学校生活以外の時間に民間やNPOとの協働で親子を対象にした日本語教室を開催いたしました。ま

ず、夏休み特別クラスと題しまして7月と8月の日曜日2時間全10回を実施し、ひらがな・カタカナ・漢字の指導、夏休みの宿題学習支援を行いました。次に2学期クラスと題しまして、9月から12月の日曜日2時間全11回を開催し、日本語初期の指導および読み聞かせによる語彙の学習支援を行いました。いずれも小中学生を対象にりぶら会議室で実施し、参加者数は、夏休み特別クラスは延べ74人、2学期クラスは延べ69人でした。また、愛知県国際交流協会との共催で実施したものとして日本語指導ボランティア養成講座、これを12月に各6時間を2回実施し日本語指導に必要な人材の育成を行いました。両日ともりぶら会議室で実施し、参加者数は延べ80人です。次に、高校への進路説明会ですが、昨年2月はブラジル人、6月はフィリピン人の保護者を対象として学校指導課の先生のご協力のもとで、母国とは異なる日本の高校のカリキュラムや、教育資金について等を説明いたしました。それぞれ参加者数は、ブラジル人保護者等は40人、フィリピン人の方は18人でした。今回は中国人保護者に対する説明会を考えております。そして今後の予定ですが、3学期クラスと題して一部すでに実施しているところですが、1月から3月の日曜日午後2時間全7回で日本語指導そして宿題学習支援などを予定しております。また3月16日の土曜日ですが、りぶらの研修室におきまして昨年12月に開催した日本語指導ボランティア養成講座の受講者を対象にして、プレスクールについて理解を深める講座を開催いたします。養成講座と同じ講師からプレスクールについての具体的な指導内容を説明していただきます。2019年の7月から12月、翌年の1月から3月には今年度と同様に、夏休み特別クラス・2学期クラス・3学期クラスを開催予定でございます。そして2020年2月から3月の土曜日にプレスクールを全5回程度実施する予定でございます。今後も教育委員会と連携いたしまして、外国人児童生徒の日本語教育・支援を進めてまいりたいと考えています。以上でございます。

○教育監

続いて教育委員会の方から説明します。まず教育委員会の資料2とありますがそれを撥ねていただいて別紙をご覧ください。ただ今の国際課の方の説明とも重なる部分がありますけども1番です。平成28年度から平成30年度の岡崎市の外国人児童生徒数の推移です。外国人児童生徒数はこの2年間で167人増加をしております。(2)その内、日本語教育が必要な児童生徒は、2年間で115人。約1.5倍に急増しております。(3)にありますように、児童生徒の主な国籍ですが、ブラジル・フィリピン・中国となっております。(4)のところですがけれども、ブラジル・フィリピン・中国籍の児童の内、日本語教育を必要とする児童生徒数と割合を示しております。

(3)(4)から近年ブラジル籍の児童生徒が急増していることがわかります。次のページをおめくりください。2です。ここには学校における語学支援等の状況についてです。現在、各学校においては児童生徒の実態に応じ、学級から取り出して指導を行う為の日本語教室を設置したり、担当の教員が学級の授業に入って個別に支援をしたりしております。人的な措置として(1)にあるように県の日本語教育を

必要とする児童生徒に対応するための教員の加配、(2)にありますように市が派遣する嘱託員の日本語教育教師が中心になります。またそのほかに市として年度途中の編入学等に対応するため、(3)に示した、ポルトガル語1人ベトナム語1人を臨時対応として派遣をしております。県からは、次のページの(4)にありますように語学相談員が派遣されております。しかし現状では日本語が全く判らない児童生徒が年度当初だけでなく年度の途中にも編入したりして急増するというような状況になっております。これにより各学校での対応が困難さを増しているというのが現状です。学校における語学支援等の主な課題を3に示しました。また、4にありますように国の第3期教育振興基本計画において日本語指導の必要性を掲げております。次のページをご覧ください。岡崎市の今後の取り組みとしましては、5に示したように平成31年度は来日して間もない、日本語が全くわからない生徒を一定期間集中的に指導し、円滑に日本の学校に適應できるよう支援するため日本語初期教室、プレクラスと呼んでおりますけども、こういったものを開設したいと考えております。対象は、中学生を対象に5月から6月のスタートを目標に開設したいと思っております。場所は南中学校の余裕教室を活用する予定でございます。そのプレクラスの開設にあたりましては、近隣の豊田市・豊橋市等の実施例を参考に考えております。

日本語初期教室について詳しくご説明いたします。戻っていただいてカラー刷りの横向きの資料2をご覧ください。指導体制としましては。主に事務や指導・コーディネートを行う室長1名と日本語教育講師2名、ポルトガル語担当とタガログ語担当各1名、を考えております。真ん中よりも下のところの青い四角の中をご覧ください。指導期間は約3ヵ月を予定しております。月曜日から木曜日は日本語初期教室で日本語の学習をし、金曜日は在籍をする学校に通うことを考えております。指導内容は、日本語、具体的にはひらがな・カタカナ・簡単な漢字・基本文型・会話等を指導します。また、子供の実態に応じて算数・数学を指導することも考えております。そのほかにも授業の始まりの起立や礼などの学習規律や掃除をすること、あるいはアクセサリーを付けてこないといった学校内のルールや基本的な学校生活についても教えていきたいと思っております。通学手段につきましては、原則、徒歩または公共交通機関を想定しております。現在のところ安全上の問題もあり、自転車や保護者の送迎については行わない方向で考えております。期待される効果といたしましては、学校生活への早期の対応が可能になること、教職員や級友とのコミュニケーションが円滑になり、孤立化や不登校を防ぐ等が考えられます。また今後の課題といたしましては、多文化共生に関わる国際課を中心とした他部局との連携を始めとして、切れ目のない支援や管理・運営面におけるガイドラインの作成等のソフト面の課題と教室環境整備等のハード面の課題があります。来年度の開設に向け今後該当校とも調整を図っていききたいと考えております。以上でございます。

○市長

以上で説明は終わりました。この件に関しまして何かご意見等ございましたらよろしく申し上げます。

○岡田委員

プレクラスは中学生が対象となっているんですけども、今後は小学校、もっと小さい子を対象というのはあるのでしょうか。

○学校指導課長

将来的には小学校の5、6年生の高学年までは拡大したいと考えております。来年度は試行的に中学校1年生から3年生を対象としますけども、その理由としては、中学生の場合不登校につながる可能性が非常にある。孤立化や進路の課題等抱える思春期となっておりますので、まずは不安定な中学生への対応が必要であると考えました。小学校の低中学年につきましては、普段の学校生活を送りながら日本語の習得・学校のルール・学習内容を身につけていくことが、まだできやすいと考えております。たとえば日本の子供たちもひらがなやカタカナといった漢字等を小学校の低学年で学習をします。こうしたことから小学校の低学年ほど普段の学校生活を通して、日本の学校に徐々に適応できるようになると思われますので、将来的には発達段階を考慮し、まずは小学校5・6年生までの拡充を今のところ考えております。以上です。

○上原委員

対象についてなんですけども、市内の中学校に在籍していない生徒や、外国人学校へ通う外国人生徒ですが、この人たちは日本語初期教室、プレクラスに入ることはできないのでしょうか？

○学校指導課長

まずプレクラスの目的が、日本語が全くわからない生徒を一定期間集中的にプレクラスで指導することによって日本の学校生活にソフトランディング出来るようにすることを目指しております。そのためプレクラスを、それを大きな役割と考えておりますけども、学校に籍が無いお子さんについては、単に日本語のみを学習する語学学校のような対応については今のところ考えておりません。以上です。

○小出委員

いま国際課で行われているいろんな講座をやっている数と延べ人数を見ますと、教育委員会からいただいた資料にある外国人児童の数と比べるとすごく少ないですね。これはなぜですか？

もう1つは、入学時の子供さん達の対応のあり方についてはどうなっているのかなということ。救いは日本語指導ボランティア養成講座の参加者の数が実数としては80が出ているので、結構な数の方がいらっしゃるのかなと思ったのですが、これは日本人の方々ですか？それと同時にタガログ語とかを理解されている方なのかどうか。

○国際課長

まず、人数が少ないという件でございます。おっしゃるとおり、まだ非常に少ないというのが現状です。たとえば、最初に書いてあります、夏休み特別クラス小中学生延べ人数74人です。これが10回ですから、平均すると7.4人。7・8人くらいの子が来てくれました。同じように次の69人も11回ですから、6人くらいとかそのくらいの少なさであります。この辺は私どもの努力不足で、PR不足というのが否めないと思っております。たとえば小中学校の外国人に対する日本語担当の先生たちが集まる会議が1年に3回あるんですけども、そういったところに私ども国際課の職員が参りましてこういったチラシを皆さんにお配りして、こういったことをやっているのぜひ学校の中でもPRして下さいという、そういったお知らせはしてはいるんですけども、まだまだ周知が足りないというのは感じております。それから2つ目のプレスクールですが、プレスクールもまだ実施に至っておりません。考えておりますのが、2020年の、来年度の2月3月にかけて2時間×5回を初めてプレスクールという形で行いたいと思っております。事前に、平成30年の4月現在で、各幼稚園・保育園の年長さんで外国人の子が何人いるのか調べはいたしました。合計69名の子がおりまして、その中で一番多いのが奈良井保育園です。ブラジルの子が8名ほどいました。そういった、とりあえず下調べはしておりまして、この子たちに対して、プレスクールをするから来て下さいと、そういった周知はしようかなと考えてはおります。プレスクールは提案いたしました、まだすぐに開始していないのが実情であります。それから3点目の日本語指導ボランティア養成講座。40名の方が手を挙げて受講していただいて、その方たちが2回ともきっちり出ていただいたということですけども、全員日本人の方で、外国語が堪能な方もその中にはたくさんいらっしゃいます。そんな状況であります。

○小出委員

外国人児童の日本語教育といった場合には幼児で来られる方もあり、小学校中学校で来られる方もあり年齢層がずっと多岐に渡っている。これからおやりいただくことなのでいいと思うのですが、それぞれの担当部局が全部違ってきますよね？国際課の方が主たる担当課としておやりになるのかなと思っておりますが、現実いろんな事業をやっていくとなるとこども部があり教育委員会があり、この辺りの連携がどうなるのかなというのがまず1点と、それから教育委員会関係の予算は小学校中学校生が対象である。でも、幼児、小学校入学前の段階を考えると、そこにこれからも予算化が多分行われていくんですよ？その場合の費用が相当出てくると思うのですが、これに関しては、単市でやる仕事じゃないと思うのですが国だとか県が予算措置を講じようとしているとか動向について何か情報がありますでしょうか。

○市長

ついこの間、そのことについて三河の市長会が県に要望書を出したところです。

○国際課長

連携のお話ではございますが、私ども国際課が旗を振りまして、役所の中で多文化共生推進庁内会議というのを立ち上げておりますので、そこで、先ほどおっしゃられた他の課との連携を情報共有しながらやっていきたいとは思っております。

○学校指導課長

予算の国の動向ということですが、教育委員会の方が平成 27 年度から申請をしております、公立学校における帰国外国人児童生徒等におけるきめ細やかな支援事業につきましては、平成 30 年度、国の予算が約 2 億 4 千万円ございます。来年度は、倍増の 4 億 9 百万円くらいになるということを知っております。ほぼ倍増ということを受けて、本市のやっている事業に対しても、帰国外国人児童生徒に対する支援事業の補助金の確保が上がっていけばと期待をしているところであります。

○教育長

今まで語学相談員という方は、最大 3 分の 1 国は出してくれる。ところが実際は、今いろいろな自治体が語学相談員とか増やしてくるので実質的には 3 分の 1 じゃなくて 4 分の 1 とか 5 分の 1 になっている。

○小出委員

加配の数が出てきているんですが、加配といってもこれは単純に日本人の普通の教員の加配ですよ？ALT のように英語が理解できる人がくるとかそういう話ではなくて。

○学校指導課長

教員の定数が足される。増えた教員が日本語指導にあたるという定員で学校外国人の数に応じて定数が増えるということになります。

○小出委員

カッコ下にあります日本語教育講師臨時対応の派遣（市）と書いてありますので、ここは岡崎市がベトナム語、ポルトガル語をしゃべれる人を配置くださっていると。

○学校指導課長

(2) と (3) についてはそれぞれ語学が堪能な方を、市が雇って必要な学校へ派遣をしている。

○福應委員

外国から日本へ入ってくる場合、仕事を求めてまたは仕事があって入って来られると思いますが、家族で入って来られる場合たくさんの小中学校にあたるお子さんもお

られると思いますが、報道によると全国で1万6千人以上の方が学校に行っているのかわからない状態にある。ということが一番危惧する。

岡崎にもそういう子がいるんじゃないかと思うのですが、岡崎市内にもそうした外国籍の子供さんで、どうしているのかわからない。何か理由があって学校へ通っていない。もちろん就学義務は無いからそれでもいいかもしれませんが、いろんな問題が起きると考えますので、外国籍の子供さんで就学不明のお子さんが相当おられるのではないかと思います。その理由とか、そういった外国籍の子の対応を考えておられたらお話しいただきたいと思います。

○学校指導課長

不就学の原因の主なものは、経済的な理由だと考えております。その他にも、日本語学習への不安、それから母国の学校と日本の学校との生活習慣が異なること、また、つい先日、こちらへ来て「就学しない」と言った保護者は、小学校の低学年なんですけれども、母国語も不十分な状態で日本の学校に入れることが母国語の習得を妨げるのではないかというような理由もありました。今後の教育委員会の方針としましては、プレクラスのご案内を就学の手続きに来た際に渡したい。あとは関係課と連携しながら住民登録の際にアンケートを実施しておりますが、それと一緒にプレクラスのチラシを配布するあるいは、りぶらにある国際交流センターでもチラシの配布をお願い出来れば、より多くの外国人の方に日本語に対する不安の解消につながるんじゃないかと考えております。また、就学をしないという意思を表明した外国人の方とか未就学の方についても、住民登録で住所がわかる方については毎年一定時期に通知をしてプレクラスのご案内やそれぞれの小中学校のご案内等を送って、できるだけ多くの外国人の方の児童生徒に岡崎市の高い質の教育を受けていただくという風に考えております。

○福應委員

今おっしゃったように、住民登録といった機会にきちんと説明をして就学していただくようにすることが、子供たちがより良い方向へいくのではないかと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

○小出委員

家の周りに外国人の方が多くて、長くいた子供さんは親の代弁をやってくださるんですけど、そうじゃなくて、最近労働者として外人さんが結構来られるんです。多分派遣企業の方だと思いますが、毎回同じような人たちがついてきて、みごとに言葉をしゃべって代弁してくれるんです。こういう人材があるんだなと思って、そういう方々をボランティアに取り込めないかだとか、あるいは、今回の初期スクールにボランティアとして入り込んでくれるような要請はできないかとイメージとしては膨らむのですが、国際課としては、企業だとか地域で通訳を積極的にやっておられる方のリストアップとか何かもうされておられますか？

○国際課長

一年前のこの会議でちょっとお話させていただきましたが、コミュニティ通訳員制度というのが国際課で平成18年度から始めておりまして、県営住宅とか市営住宅とか特に、ブラジル人・中国人・フィリピン人が多いんですよね。そこの地元の町内会の総代さんたちが一番苦労してみえると思うのですが、そこにたまたま外国人の方で日本語が堪能で役所に非常に協力的な方が結構いらっしやいまして、その方と総代さんがタッグを組んで橋渡しをして町内会費の説明とか毎月第1日曜日は掃除の日ですとか説明を代わりにやってもらう。そういったことをやっていただく人をコミュニティ通訳員ということで私どもが正式にお願いをしまして実績に応じて、本当に少ないんですけど、謝礼を出している。そういった制度をつくっております。今のところ15か所で15人の方がやっていたいてるんですけども、ほとんどブラジル人の方です。それも、もっと広くやっっていこうとは今考えておりまして、一つの取組みとしまして、今までは地元で考えていたのですが、いろんな場所に点在しているので、ある地区というようになかなか限定できなくて、広域の、もっと言えば市全体の面倒をみてもらう広域のコミュニティ通訳員ということを考えておりまして、ベトナム人女性で日本人と結婚された方がいましたので、その方に広域の通訳員に来年度からやっていただくことになりました。そういったことで少しずつ通訳員制度を大きく拡充していこうかなと思っております。

それからもう1つ。前回の市議会で人材バンクというのを作ったらどうかというのを議員さんの方からの提案がありまして、今、少しずつ進めております。どんなことができるか10個くらい具体的に書いた中からどういったことができるか、いつだったらお手伝いができるか、どんな場所でお手伝いがしたいか等いろんなことを出していただいてそういった方を人材バンクとして国際課で管理をいたしまして、必要なところ・時にお願ひして出てきていただく。そのようなことを少しずつ水面下で進めてはおります。

○小出委員

今の話は、生活支援という立場からのいろんな意見だと思うけれど、教育という面でそういう方がなんらかの形でこのプランニングに関わっていただけのようにまであるといい。1人2人でも入っていただけのなら、教員の方との間に入っていただくと効率が良くなるのかなあと。

○市長

この件に関してはよろしいでしょうか。

それでは、この件に関しては他にご意見も無いようでございますので、次の議案に移ります。議題2「教育行政に係る平成31年度当初予算について」財務部長より説明をお願いします。

○財務部長

私からは議題2の教育行政に係る平成31年度当初予算について説明させていただきますので、資料3をご覧くださいと思います。

平成31年度当初予算に計上予定の新規あるいは拡充などの主な予算につきましてまとめさせていただいております。なお、この当初予算につきましては編成途中ということをご承知おきいただきたいと思います。

最初にエアコンの整備ということで取り上げさせていただきました。冒頭、市長からもご説明があったとおりでございますので、中身についての詳細は省きますが、PFI手法により6月末までに小中学校全学年の普通教室および特別教室等へ空調設備を進めて参るという予算でございます。昨年12月に事業契約締結をいたしまして、総額は57億9千万円ということでございます。この経費の中には初期の整備費と10年間の維持管理経費がすべて含まれてこの金額でございます。予算のことについて申し上げますと、国の補正で予算が国の方から支援がいただけることになりましたので、これを活用して今度の平成30年度3月補正でこの57億9千万円の中の41億円ほどの補正額を出そうということで考えております。来年度の当初予算には維持管理経費とこれから当然エアコンを使うこととなりますと、燃料費がその分かさむこととなりますから、これと合わせまして1億1千万円ほどの予算を計上しておるところでございます。

続きまして2つ目でございますが、小学校5・6年生の外国語活動の充実ということで、新学習指導要領の改正により単位が年間50から70時間に改正されるということに伴って、外国語指導助手(ALT)という方を増員するという予算でございます。こちらにつきましては、現在23人のところを32人。9人増やすということで、約4千万円の増額を予定しておるところであります。

続きまして、帰国・外国人児童生徒の教育支援ということで、議題1の中でも話が出た、日本語初期指導教室を新たに設置し、初期指導を行うという内容の予算でございます。こちらは新規の案件でございます。初期指導教室の設置といたしまして、先ほどもお話が出ておりましたが、主には人件費で、室長1名・講師の方2名ということも含めまして870万円ほどの増額の予算を組んでおります。

めくっていただきまして2ページ目の方に移らせていただきます。一番上から順番に行きます。まず一番上、部活動指導員の配置ということで、部活動の顧問として技術的指導、部活動の管理運営、大会引率等を行う、部活動指導員というのを中学校に配置してまいりたいということでございまして、来年度につきましては、3名プラスして新たに配置していきたいということで、こちらに関しては220万円ほどの増額を見込んでおります。

続きまして、教師の多忙化の解消ということで教員補助者の配置人数を増員するというございまして、これは、18人増員するということを考えてございまして、約1200万円ほどの増額を見込んでおります。

ここまでが主には人の配置に関わる予算でしたが、続きまして今度は、タブレットパソコンの充実ということで、中学校のタブレットパソコンをより適正な台数を確保

するということで、来年度は224台追加するということを考えております。これにつきましては300万円ほどの増額を見込んでおります。

続きまして給食の案件ですが、学校給食業務委託料の増額ということで物価の上昇等に対応するため食材料費一食あたり、栄養の面だとかを考えますと10円上乘せしていきたいと考えておりますので、これについて委託料を増額するものでございます。特に材料費ということに絞りますと4千万円ほどの増額を見込んでおります。

今度は校舎等の整備ということで、3点ほど主なものをあげさせていただきました。児童数増加に伴う教室不足ということで、1点目が岡崎小学校でございますが、岡崎駅南土地地区画整備事業に伴って生じた土地を購入いたしまして校地の整備と校舎の増築を進めるということを考えておりまして、来年度につきましては実施設計と地質調査を行うものでございまして、合わせまして5千8百万円ほどの予算を見込んでおります。2点目は大門小学校でございますが、こちらは図書室を増築し、既存の図書室がほかの教室に近いので、こちらの方を教室に改修するという事業でございまして、こちらは校舎の改築費・増築費など工事費が8千5百万円ほど計上される予定でございまして、それから3点目につきましては、教室ではないですが、12mの高所作業車ということで、学校でいろいろな作業をするのに、こういった車両が必要になるわけでございますが、これまではレンタルをしておりましたが、度々の賃借ということになりますのでこの際、購入しようということで来年度は予算を計上する予定でございまして、約1千万円でございます。

最後に総合学習センターの整備ということで、実技研修室を備えた教育センターとして整備を進めているところでございますが、来年度につきましては、解体工事費が主なもので9千5百万円ほどの予算を計上させていただいております。以上でございます。

○市長

以上で説明を終わりましたけれども、この2番目の件につきまして何かご意見ございましたらよろしくお願ひします。

○福應委員

教育関係の予算案でございますけれども、子供たちが岡崎で学ぶことに価値を見出すという保護者が多くなりますと良いですね。したがって岡崎の教育の特徴をどこで出すのかということが非常に重要になってくると思いますね。そうしたものは岡崎に住もうとなると思いますのでぜひ特色を出しながら全体的な充実を図っていただきたいなと思って聞いておりました。たとえば言うとも1番目の小中学校の英語教育。先ほどの話の中でも出てきましたけれども、5・6年生から英語科を取り入れるというのは、やはりよそでは見られない事項でありますので、小学校にこうした指導助手さんが入られるかなと思います。ぜひとも充実を図っていただきたいと思っております。併せてタブレット端末ですね。市政だよりも小学校1年生の子が使っている写真がありました。岡崎に行くにああいうことが1年生からもやれるのかなということにな

ってきますので、ぜひともそういう特色あるところをぜひ充実を図っていただきたいと思うと同時に、多忙化解消、これは特色とは言えないかもしれませんが、教職員の仕事の見直しということもありますので、そういったことは外国語指導員と相並ぶ内容だと思いますが、そんなこともいろいろ出しながら予算化を図っていただけないかなと思います。いろんな総合教育会議、先だって 20 か所くらいの市町を見てきましたけれども、大綱をつくるだとかそういう基本的なことをやっているところもありますし、岡崎の場合だと空調を含めてですね、喫緊の課題と長期的な課題の両面で持って話し合いができたかなと思いますのでぜひとも今言ったことも踏まえながらこれからもお願いしたいと思います。

○教育部長

いまおっしゃったとおりに進めさせていただくということで、特に外国語につきましては従来から岡崎は特徴がある形で進めております。タブレットについても iPad を使うという他に前例の無いようなかたちで進めさせていただいておりますので、ますます教育委員さんのお力をお借りしまして進めたいと思っております。以上でございます。

○市長

何か他にありますか？よろしいですか？

それでは他に無いようでございますので、次の議題に入らせていただきます。だいぶ意見も出たようでございますけれども、その他として岡崎教育行政に関しまして他にお気づきの点がありましたら自由なご意見をいただきたいと思っております。

○小出委員

総論になってしまいますが、岡崎の教育が、質が高いなと思いつつ目をつけるべきは今日の話に出たような広い意味で恵まれない子供さん達への配慮は常に心がけて行かなければいけないかなと思っております。できる子はできる。できない子をどうしていったあげるのがいいのかというのは、どうしても良い成績をとったり目立った子に視点がいくんですけども、全体のかさ上げという意識を持ってかないといけないなと思いつつここにいます。

○市長

それでは、本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。以上で本日の議題は終了いたしました。これをもちまして平成 30 年度第 2 回総合教育会議を閉会させていただきます。これからもよろしく申し上げます。ありがとうございました。